

第29号(2023年7月配信) コンテンツ

近藤会長からのメッセージ

1. 医薬品情報・学会ニュース 第31回日本医学会総会
2. ヘルスケア業界トピックス HPVワクチンと女性の健康
3. 医療安全確認クイズ 重篤副作用疾患別対応マニュアル
「**卵巣過剰刺激症候群(OHSS)**」
4. 各委員会からのお知らせ
5. 医療安全確認クイズの答えと解説
6. 今後のイベント



医薬品を用法・用量を守らずに過量に摂取する「オーバードーズ」は、健康被害を引き起こしたり、やめられなくなったりするおそれがあります。自分や周囲の人が苦しんでいる場合、医師または薬剤師に相談しましょう。



近藤会長からのメッセージ

6月26日は国連の「国際麻薬乱用撲滅デー」です。これを踏まえ、厚生労働省、都道府県および(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、毎年6月20日(火)から7月19日(水)までの1カ月間、「『ダメ。ゼッタイ。』普及運動」を実施しています。この運動は、国民一人一人の薬物乱用問題に関する認識を高めるため、正しい知識の普及、広報啓発を全国的に展開するものです。現在、若年者の大麻の乱用が懸念されています。薬剤師としては、乱用防止を常に念頭に置き、また、薬物乱用を疑われる場合には話を聞き、必要ならば近隣の相談窓口への相談を勧めて、更に適切な治療・支援につながるような対応を心がけましょう。[「ダメ。ゼッタイ。」普及運動\(リーフレット\)\(PDF:2,572KB\)](#)

一般用医薬品のオーバードーズも増える中、地域住民のヘルスリテラシーの向上にむけて薬局薬剤師として活動しましょう(右上の図は一般用医薬品の濫用防止に関するポスター)。

政府は毎年6月をめぐりに「[女性版骨太の方針2023\(女性活躍・男女共同参画の重点方針\)](#)」を決定し、今年以下3つの重点事項に取り組むとしました。私たちも薬剤師として女性の健康支援に貢献してゆきたいと思います。

1. **女性活躍と経済成長の好循環の実現に向けた取組の推進**(女性役員比率,女性起業家支援など)
2. **女性の所得向上・経済的自立に向けた取組の強化**(長時間労働慣行の是正、多様で柔軟な働き方の推進、性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み・偏見)の解消、女性デジタル人材の育成、リスクリングの促進など)
3. **女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現**(配偶者などからの暴力やDVの対策、性犯罪・性暴力対策の強化、職場におけるハラスメントの防止、生涯にわたる心身の健康への支援など)

日女薬カレントニュース第 29 号は、女性の健康と HPV ワクチン特集、第 31 回日本医学会総会より特別講演 2 題、「iPS 細胞 進捗と今後の展望」(山中 伸弥氏)、「健康寿命の延伸に向けて～口腔の健康と全身の健康～」(堀 憲郎氏)をご紹介します。

会員の皆様のますますのご活躍を祈念しております。

1. 医薬品情報・学会ニュース

1-1 厚生労働省ホームページより

★[薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について\(令和 5 年 6 月 16 日適用\) | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

★[緊急避妊に係る取組について | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

・施設紹介: 対面診療が可能な医療機関一覧(令和 5 年 3 月 31 日時点)

・緊急避妊に関するオンライン診療 緊急避妊に関する研修を修了した医師の一覧は[こちら](#)

・「オンライン診療の適切な実施に関する指針」に基づく薬局における対応については[こちら](#)

★ [医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議 | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

厚生労働省は 6 月 26 日に「第 25 回 医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議」を開き、緊急避妊薬の OTC 化について議論した。前回から懸案の試験的運用について事務局は、「地域の一部薬局における試験的運用」との資料を提出。議論では試験的運用自体には異論は出なかった。薬局数を拡大すべきとの意見も出て、引き続き検討することとなった。

★ [いわゆる経口中絶薬「メフィーゴパック」の適正使用等について | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

※人工妊娠中絶は、母体保護法指定医師が所属する医療機関のみで実施可能です。

本剤は医薬品製造販売業者⇒卸売販売業者⇒登録された医療機関のルートのみを通じて販売されることから、薬局やインターネットで購入することはできません。(R50428 製造承認取得)

[「ミフェプリストン及びミソプロストール製剤の使用にあたっての留意事項について」\(令和5年4月 28 日付け薬生薬審発 0428 第5号・子母発第 54 号厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長・こども家庭庁成育局母子保健課長連名通知\)](#)

★一般用医薬品の濫用等を未然に防ぐことを目的とし、冒頭掲載の啓発ポスターを作成し、厚生労働省HPに掲載しました。[一般用医薬品の濫用防止に関するポスターについて](#)

★外国人患者受け入れ対応支援事業:[「夜間・休日ワンストップ窓口／希少言語に対応した遠隔通訳サービス」第1回オンライン説明会のご案内\[458KB\]](#)7月7日16:00-17:00ZOOMウェビナー

参加費無料、要事前申し込み <https://forms.gle/xeXH9ws9PhhVy9e19> 締切り7月6日17:00まで

1-2 感染症情報

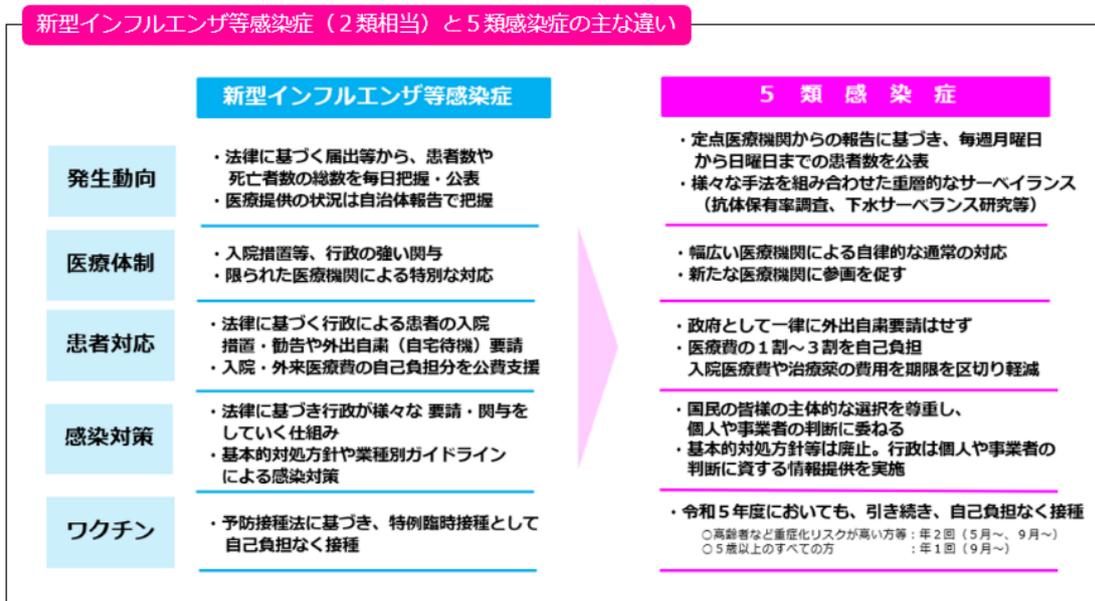
★[新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の対応について | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に変更されました。幅広い医療機関にコロナ診療に当たる環境を整備することが重要となることから、医療機関向けに、感染対策や診療方針に関するリーフレットを作成しました。オンライン診療、オンライン服薬指導の診療報酬上の取り扱いについては7月31日をもって終了します。

⇒医療機関へのリーフレットは[こちら](#) [3.1MB] (令和5年5月26日更新)

⇒国民の皆様へのリーフレットは[こちら](#) [548KB]

下の図は厚労省 HP より引用(20230628 参照)



1-3 学会参加報告 第31回日本医学会総会・博覧会in東京(2023年4月21～23日開催)

メインテーマ「ビッグデータが拓く未来の医学と医療～豊かな人生100年時代を求めて～」

特別講演2 健康寿命の延伸に向けて～口腔の健康と全身の健康～

日本歯科医師会会長 堀 憲郎氏

我が国の公的医療保険制度の始まりと言われる「健康保険法」の公布から、今年は101年目になります。この間、歯科界は昭和30年代を中心とした「う蝕の洪水」と言われた状態に対して、一丸となって「予防活動」に取り組み、また我が国が超高齢社会を迎えるにあたっては、30年以上に亘り8020運動(80歳になっても自分の歯を20本以上保とう)を展開し、いずれも大きな成果を上げました。結果として、う蝕は激減し、健康な歯を有する高齢者が増え、歯科へのニーズも劇的に変化しました。そのような現状認識をもとに、未来に向けて、歯科界が担うべき新たな役割を20年近く議論してきました。その結果、「これからは、従来を治す歯科医療に加えて、口腔の機能の維持・向上をはかる歯科医療を目指す」という方向性を得ると共に「歯科医療と口腔健康管理の充実により、健康寿命の延伸に寄与し、元気な高齢者を増やすことで、人口減少問題にも貢献する」という明確な目標を掲げるに至っています。①[歯とお口のことなら何でもわかる テーマパーク8020 \(jda.or.jp\)](#)

この目標達成に向けて、日本歯科医師会は「2040年を見据えた歯科ビジョン」を取り纏め、取組みを始めています。②[2040年を見据えた歯科ビジョン—令和における歯科医療の姿— | 歯科医師のみなさま | 日本歯科医師会 \(jda.or.jp\)](#)

③健康人生100年時代の新常識【日経BP総研リポート】[bp-report.pdf \(jda.or.jp\)](#)

口腔健康管理の重要性を示すエビデンス満載の情報サイトですので、是非一度ご覧ください。

特別講演9 iPS細胞 進捗と今後の展望

京都大学iPS細胞研究所／公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団 山中 伸弥氏

ヒトiPS細胞(induced pluripotent stem cell/ 人工多能性幹細胞)は、病気やケガで機能不全になった組織、臓器の回復を図る再生医療に貢献する技術として期待されています。iPS細胞は、患者さん自身の細胞から作製することができますが、臨床で用いるためのiPS細胞を作るには、免疫拒絶反応が起こりにくいと考えられる細胞の型(ホモHLA型)を持つ健康なボランティアドナーの血液等から、あらかじめ再生医療用iPS細胞を作り、備蓄(ストック)する計画が進められています。2015年8月以来、日本人の約40%に移植可能な再生医療用iPS細胞ストックが国内外の様々な機関・プロジェクトに提供されているそうです。ヒトiPS細胞の発見から約15年が経ち、今では世界中で患者さんに革新的な治療を届けるための研究開発が進められています。iPS細胞研究の現状として、パーキンソン病治療用のドーパミン神経前駆細胞(住友ファーマとの共同研究)、脊髄損傷後の機能回復、角膜上皮幹細胞疲弊症治療のための角膜上皮シートの開発事例が紹介され、臨床応用への期待が高まりました。今後の展望については、HLAゲノム編集iPS細胞ストックの開発や、自家移植のためのmy iPS細胞培養技術(閉鎖型培養装置 年間1000件、1人あたり100万円)が実用化に向けて検討されています。講演では、iPS細胞は再生医療のみならず、医薬品開発(疾病の原因解明、医薬品の有効性・安全性の評価)にも応用が期待されることも紹介され、私達薬剤師としても今後注目していきたいと思いました。

2. ヘルスケア業界トピックス 「女性の健康とHPVワクチン」特集

2022年4月にHPVワクチンの定期予防接種の積極的な勧奨が再開されました。対象年齢およびキャッチアップ接種の対象の方へ必要な情報が行き届くように適切な情報提供を行うのはもちろんのこと、特に9価ワクチンは2023年の4月から定期接種に追加されたこともあり、接種を行った方へのその後のフォローも大切です。ワクチンの詳細は、「[9価 HPV ワクチン\(シルガード9\)について](#)」をご覧ください。

[子宮頸がんの予防効果が高い9価HPVワクチンが公費で接種可能に | 暮らしに役立つ情報 | 政府広報オンライン \(gov-online.go.jp\)](#)(2023年6月7日更新)

比較的若い世代の女性に発症しやすい子宮頸がんは、そのほとんどがヒトパピローマウイルス (HPV) の感染が原因で起こりますが、HPV の感染を防ぐ「HPV ワクチン」の接種により、発症のリスクを低くすることができます。HPV ワクチンには 3 種類があり、令和 5 年(2023 年)4 月からは、従来から公費で接種可能な 2 価・4 価ワクチンに加え、「9 価 HPV ワクチン」も公費で接種できるようになりました。また、HPV ワクチンが積極的に勧奨されていなかった期間に接種の機会を逃した人についても、令和 7 年(2025 年)3 月末までは公費による接種が可能です。ただし、ワクチンだけでは防げない HPV 感染もあるので、20 歳以上の人は 2 年に 1 回、子宮頸がん検診を受診し、予防と早期発見に努めることが大切です。

子宮頸がんは、子宮の出口付近である子宮頸部にできるがんです。日本では毎年約 1.1 万人の女性が子宮頸がんにかかり、毎年約 2,900 人が子宮頸がんで亡くなっており、25 歳から 40 歳の女性のがんによる死亡の第 2 位は、子宮頸がんによるものです。また、30 代までに子宮頸がんの治療で子宮を失って妊娠ができなくなってしまう人が年間に約 1,000 人います。

日本では現在、小学校 6 年から高校 1 年相当の女子を対象に定期接種が行われており、対象者は公費で HPV ワクチンの接種を受けられます。「2 価ワクチン」、「4 価ワクチン」は以前から公費による接種が可能で、子宮頸がんの原因の 50%から 70%を占める HPV16 型や 18 型は、3 種類ある HPV ワクチンのいずれも感染の予防が期待できます。加えて、HPV31 型、33 型、45 型、52 型、58 型の感染も防げる HPV ワクチンが「9 価ワクチン」で、子宮頸がんの原因となる HPV の 80%から 90%を防ぐことができます。

HPV ワクチンで頻度の高い副反応は、注射部位の痛み、腫れ、赤みなどです。WHO は 2019 年に「予防接種ストレス関連反応 (ISRR)」という概念を発表しました。これは予防接種のストレスや不安から、ワクチンの種類には関係なく、めまいや失神などが起きる反応です。さらに、接種後、時間をおいて、脱力、まひ、四肢の異常な動き、歩行障害・言語障害などの症状があらわれることが確認されました。しかし、こうした ISRR の症状は、医師による丁寧な説明、痛みへの対処で予防できると考えられており、対応するマニュアルも作られています。HPV ワクチン接種後に生じた症状の診療については、都道府県ごとに 1 か所以上設けられた、「協力医療機関」で、より知識のある医師が対応するようになっています。

HPV ワクチンの定期接種のお知らせは、小学校 6 年から高校 1 年相当となる年に、お住まいの市町村から送付されます。まだ接種を受けていない人や、HPV ワクチン接種を合計 3 回受けていない人(平成 9 年度から平成 18 年度生まれの女性)は、「キャッチアップ接種」として、2025 年 3 月まで公費による接種が可能です。15 歳以上の人は合計 3 回の接種が必要となり、一般的な接種スケジュールでは最短でも 6 か月ほどかかるため、接種を希望される場合は、早めの接種をお勧めしてください。

参考 1) [子宮頸がん HPV ワクチンに関する正しい理解のために | 公益社団法人 日本産科婦人科学会 \(jsog.or.jp\)](#) (2023 年 6 月 13 日更新)

参考 2) [HPV ワクチン定期接種 最新情報 9価ワクチンも登場 気になる副反応は? | NHK 健康チャンネル](#) (2023 年 5 月 18 日更新)

3. 医療安全確認クイズ (答えは 5. 医療安全確認クイズの答えと解説参照)

Q.重篤副作用疾患別対応マニュアル「**卵巣過剰刺激症候群(OHSS)**」に関する記載のうち誤りはどれか? 参考)重篤副作用疾患別対応マニュアル「OHSS」[000240131.pdf \(pmda.go.jp\)](#)

1. 不妊治療等による医薬品の投与後に次のような症状がみられた場合には、直ちに医師・薬剤師に連絡して下さい。「おなかが張る(ウエストがきつくなった)」、「おなかが痛む」、「はき気がする」、「急に体重が増えた」、「尿量が少なくなる」など
2. hMG、hCG などのゴナドトロピン製剤を用いた排卵誘発治療や生殖補助医療における調節卵巣刺激症例において、OHSSは5%程度発現し、重症例においては血栓症、肺水腫などによる死亡例がみられる。
3. 生殖補助医療の調節卵巣刺激は多数の卵を得ることが目的であり、多発卵胞発育を起こさせるが、OHSSの発生頻度は一般の排卵誘発と同程度である。
4. 生殖補助医療は診療所で行われることが多くなったが、OHSS が重症化する可能性が高い場合は高次医療機関に早めに送るべきである。特に妊娠している場合は症状が重症化・遷延化することが多くなる。
5. 臨床症状から OHSS が疑われる場合には、可能な限り早期に血液・生化学検査を行い、ヘマトクリット値、血清蛋白、アルブミン等を把握するとともにエコーにより卵巣肥大、腹水貯留の有無の程度を確認して重症度を評価し、入院管理の必要性を判断する。

4. 委員会・都府県女薬からのお知らせ

4-1 日女薬会員は、薬剤師継続学習通信教育講座を受講し、G16認定薬剤師を取得しましょう。

2023年度 薬剤師継続学習通信教育講座

新年度 2023年5月～2024年3月 | 第一次募集中 2023年6月30日まで

[薬剤師継続学習通信教育講座の募集要項\(JWPA【一般社団法人 日本女性薬剤師会】\) \(jjoyaku.org\)](#)

引き続き受講者受付中です。今からでも受講開始・キャッチアップできます。

従来の学習に新シリーズを追加、さらに内容が充実!!

シリーズ1「緩和ケア病棟・療養病棟」

シリーズ2「認知症に寄り添う」

シリーズ3「在宅療養を支える多職種連携」

4-2 ★日本ファーマシストヘルス研究への参加者募集

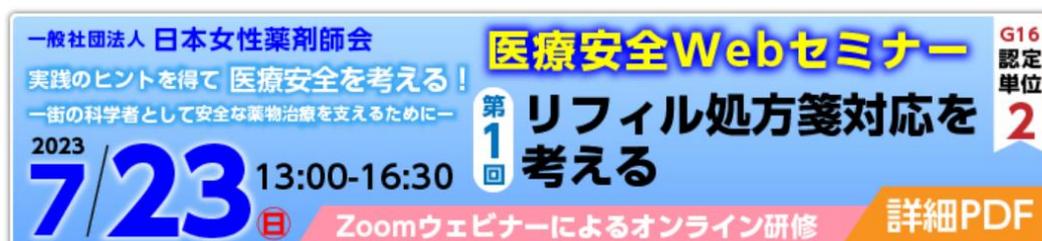
群馬大学の疫学研究チームが本年、女性の生活習慣と健康に関する疫学調査「日本ファーマシストヘルス研究」を開始しました。1962年～1999年生まれの薬剤師資格をもつ女性を募集しています。[20230219_JPHS.pdf \(hap-fw.org\)](#)

月経関連疾患、不妊症、若年に発症する貧血、子宮内膜症、子宮筋腫、片頭痛など有症割合や女性ホルモン剤の利用、婦人科領域のがん検診といった女性固有の保健医療習慣の実態を把握することで、さまざまな症状や疾病の発症予防につながる若年時の生活習慣因子を探索することを目的とした長期のコホート研究です。本調査は長期にわたって2年に一回の質問票調査に協力するもので、高いフォローアップ率を確保するためには、本調査の医学薬学的意義を十分理解できる集団であることが求められ、薬剤師が対象とされたものです。

[資料請求サイト](#)から資料を入手のうえ、参加をご検討ください。

4-3 医療安全 Web セミナー開催案内(2023年7月23日開催)

受講者募集中(参加申し込み締め切りを7月9日まで延長)[20230723_nichijyo.pdf \(jyoyaku.org\)](#)



一般社団法人 日本女性薬剤師会
実践のヒントを得て 医療安全を考える!
一街の科学者として安全な薬物治療を支えるために—
2023
7/23 13:00-16:30
第1回 **リフィル処方箋対応を
考える**
Zoomウェビナーによるオンライン研修
詳細PDF
G16
認定
単位
2

4-4 2023年度婦人科ファーマシューティカルケア専門領域研修開催案内(10月1日開催)

第一回ピンクリボン特別講演会 案内チラシ⇒ [PowerPoint プレゼンテーション \(jyoyaku.org\)](#)



2023年度 婦人科ファーマシューティカルケア 専門領域研修 一般社団法人 日本女性薬剤師会
第一回ピンクリボン特別講演会
2023
乳がん治療の最前線
10/1 12:00-17:45
会場：クオールアカデミー研修センター
詳細PDF
G16
認定
単位
2

5. 医療安全確認クイズの答えと解説

誤りは3. OHSS の発生頻度は一般の排卵誘発と同程度である。

⇒ 正)OHSS の発生頻度は一般の排卵誘発と比較して高い。

卵巢過剰刺激症候群とは、ゴナドトロピン製剤、hCG 製剤などを使用した不妊治療において卵巢が過剰に刺激されたために起こる卵巢の肥大とその一連の随伴症状を指す。ゴナドトロピン製剤を用いた排卵誘発治療や生殖補助医療における調節卵巢刺激症例においては5%程度発現し、重症例においては血栓症、肺水腫などによる死亡例がみられる。生殖補助医療の調節卵巢刺激は多数の卵を得ることが目的であり、多発卵胞発育を起こさせるので、OHSS を発生しやすい状態になっており、一般の排卵誘発に比較して発生頻度は高い。軽度の卵巢の腫大そのものは臨床的に問題となる副作用ではないが、重症例では大量の腹水が貯留して血管内脱水が生じ、循環血漿量の減少を生じることにより、急性腎不全、血栓症、肺水腫等の生命予後にかかわる重大な合併症に進展することがあるため、早期に発症を把握して治療を行うことが重要である。OHSS の発症機序については、次のように考えられている。ゴナドトロピン製剤などの投与により、腫大した卵巢から過剰のエストロゲンが分泌され、その作用により卵巢の毛細血管の透過性が高まり、アルブミンとともに血液中の水分が腹腔内に漏出する。その結果、循環血液量の減少をきたし、2 次的に血液濃縮が起こるため、ヘマトクリット値の上昇、低血圧、さらには頻脈をきたす。また、結果として尿量の減少をもたらす。一方、腫大した卵巢は過剰のエストロゲン分泌とあいまってレニン-アンギオテンシン系を介してアルドステロン分泌を刺激し、結果として腎臓でのナトリウムと水の再吸収を促進して、乏尿を促進する。生殖補助医療において OHSS 発症のリスク因子がある症例では、クロミフェンやアロマターゼインヒビターを併用しゴナドトロピン製剤の使用量を減らすことで OHSS のリスクが低下することが報告されているほか、OHSS のリスク低減を目的とした検討が複数行われている。

ゴナドトロピン注用 5000 単位 添付文書改訂(2022 年 8 月)

1. 警告 本剤を用いた不妊治療により、脳梗塞、肺塞栓を含む血栓塞栓症等を伴う重篤な卵巢過剰刺激症候群があらわれることがある。

参考)重篤副作用疾患別対応マニュアル「OHSS」[000240131.pdf \(pmda.go.jp\)](https://www.pmda.go.jp/secure/ichu/ichu000240131.pdf)

6. 今後のイベント 研修会・講演会日程一覧(日付順)ページ

一般社団法人 日本女性薬剤師会

TEL: 03-5244-4857

FAX: 03-5244-4077

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2 丁目 2-17 喜助お茶の水ビル3F

E-mail: jwpa@khh.biglobe.ne.jp

Web サイト <https://www.jyoyaku.org/>